

# 「道南の山を歩く」

(1388) M/K



偶然にも昨年と同じ7月3日10時半新潟西港から小樽行きフェリーに乗船した。花音痴の私と登る脚力は私よりはるかに強いが、折り紙つきの方向音痴の家内の二人連れ。目指すのは道南のニセコアンヌプリ、チセヌプリ、そして樽前山の三座だ。昨年は道東を旅するのが目的だったので山は予定しなかった。(その代わりに、予定になかった野付半島を見る機会を得たのだが)

4日朝4時半小樽港着。週末は登山口の駐車場は混雑し車が止められないことがあるとガイドブックに書いてあったのでニセコアンヌプリ(羊蹄山の西側に位置するニセコ連峰の最高峰で1308mの山)の登山口五色温泉を目指す。小樽から国道5号を通り余市、倶知安を経て7時40分駐車場着。幸い車の数はまだ多くない。地元の人が根曲がりだけを採取するために藪の中へ入るらしく、朝露でびしょぬれになった人の姿が見受けられる。ゆっくり腹ごしらえをし、トイレを済ませ、8時20分歩きはじめる。標高が1000mを超えたあたりから歩きにくい岩と石の登山道になる。花の写真を撮りながら山頂に着いたのは9時40分。ほぼ東の方向に羊蹄山(あこがれの山だがとても自信がない)が雲海の中に浮かんでいる。感激の一言。刻々の雲の動きであっという間にみえなくなったりだが、圧倒的な蝦夷富士のスケールの大きさにただ見入るばかり。週末とあってどんどん人も増えてくる。早めの昼食を終えさあ下山にかかろう。

お昼少し前登山口に到着。予定の一座目終了。登山口のビジターセンターで情報収集する。

5日はチセヌプリに登る予定。前日の検討で場合によっては山頂に向かう前にシャクナゲ岳にも寄ってみようか。8時25分神仙沼登山口駐車場から歩き出す。立ち木の葉や枝がかぶっており歩きにくい。木道もところどころ壊れたままの状態のところも。



ニセコアンヌプリから  
イワオヌプリ



ハクサンチドリ



ニセコアンヌプリ山頂と雲海の羊蹄山



キタキツネ



神仙沼



長沼からチセヌプリを望む



シラネアオイ

町村が異なっているせいかな？30分足らずで神仙沼に到着。広々とした湿原が広がっている。沼のところにいた若いカップルにシャッターを押してもらおう。次の経由地長沼には20分強で到着したが、そこから分岐に出るまでの行程は難行苦行の連続だった。細長い沼に沿って歩くのだが何とも整備の生き届かない道で行政区分の違いかと痛感する。分岐からシャクナゲ岳に向かって歩き出したが、やはり歩きにくい道の連続だ。家内は戻ろう、戻ろうとしきりに言う。白樺岳とシャクナゲ岳の分岐に来てやはり引返そうと決断する。本来のルートの方に戻った時はすでに約一時間ロスタイムとなっていた。山頂到着は12時25分。東側にはニトヌプリ、イワオヌプリ、ニセコアンヌプリ（昨日登った）が連なりその向こうに羊蹄山が顔をのぞかせている。西側にはシャクナゲ岳、白樺山、前目国内山、さらには岩内岳までよく見える。昼食を済ませ、さあ下山だ。昨日仕入れた情報だと国道66号線の駐車場まで40分とある。楽勝と思ったらあにはからんや巨岩、怪石が道を覆い、家内は非鳴の連続、足が届かない、捕まるものがない、私を置いていくな、など等。何と40分のはずが63分かかって駐車場に到着。ここからはアスファルトの国道を歩き、朝車を止めた神仙沼の駐車場へ。幸いなことにほぼ下り坂だったこともあり30分ほどで到着出来た。何とか予定した二座目完了。

6日は樽前山に登る。8時55分7合目の駐車場から歩き出す。途中展望台で支笏湖の風景を撮ったり、樽前草を何か所でも写真に収めながら外輪山の分岐に10時到着。巨大な火口原の真ん中にそびえたつ溶岩ドームに圧倒され、言葉も出ない。ともあれ東の頂に向かって歩き出す。しばし写真を撮りまくり今度は樽前神社奥宮に向かう、周回コースをとる人以外はあまりこないようで物静かな砂礫の道歩きだ。さっきの東の山頂からとはガスの噴出量も噴出個所もまた違った光景に見える。ピーカンの天気のおかげ、千歳空港が近いせいかな航空機の音がけっこうよく聞こえる。そうだ今日はYリーダーの大雪山旭岳の日だ。お天気で良かったなと感想する。さあ下山だ砂礫に足を取られながら12時ちょっとすぎ無事下山。何とか予定した三座完了。天気に恵まれたことに感謝、感謝の3日間だった。



チセヌプリ山頂



イワオヌプリ、ニセコアンヌプリ奥に羊蹄山



展望台からの支笏湖



樽前草



山頂からの溶岩ドーム



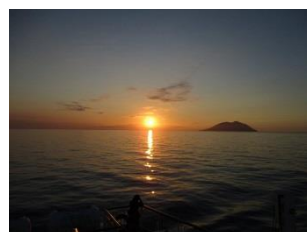
樽前神社奥宮から



外輪山分岐から



日高の牧場にて



北海道沖大島に沈む夕日



僚船と行きかう